

1 一般管理事項

番号	対策の名称
⑥	エネルギー使用量の見える化（分計による課題発見）
内容	<p>「見える化」とは、収集した情報やデータを表・グラフなど目に見える形にすることで現状を把握し、問題点の抽出、改善へつなげる取組のことです。</p> <p>〈エネルギー使用量の見える化の例〉</p> <div data-bbox="379 528 501 560"> <p><b>【電力計測】</b></p> </div> <div data-bbox="389 557 711 714"> <p>事業所で消費する電力を、照明、空調、その他(事務機器等)に分けて連続計測します。計測結果をグラフ化することで、以下のような課題が見つかります。</p> </div> <div data-bbox="778 528 1425 804"> </div> <div data-bbox="373 763 512 792"> <p><b>【課題（例）】</b></p> </div> <div data-bbox="389 792 1192 978"> <ul style="list-style-type: none"> <li>A. 夜間の空調負荷を下げられないか</li> <li>B. 休業日の空調負荷を下げられないか</li> <li>C. 使用していない設備の空調範囲を限定して空調負荷を下げられないか</li> <li>D. 夜間に消費するエネルギーは何に使われているのか</li> <li>E. 無駄な照明の点灯はないか</li> <li>F. 夜間の照明は必要か、LED化でさらに削減できないか</li> <li>G. 待機電力を削減できないか</li> </ul> </div> <p>省エネルギー対策を進める基本として、エネルギー使用状況の把握が必要です。</p> <p>把握したエネルギー使用量等を見える化し、分析から更なる課題が発掘されることで、新たな省エネ対策を検討可能になります。見える化された資料は、関係者に提示することで問題意識を高め、改善を行うための重要な情報源になります。</p> <p>〈商業施設における取り組み例〉</p> <p>商業施設において、店舗ごとに見える化されたデータから電力削減量ランキングを行い、全店舗に向けて発表します。</p> <p>設備別（店舗照明、ケース照明、空調、その他動力など）の電力消費量についても、ランキングにします。さらに、気候条件等の違いを考慮したものとして、ゾーン別でもランキングを実施します。</p> <p>他店舗と比較し、順位化されることで取組への当事者意識が芽生え、目標を持ちます。上位になった事業所は、改善努力が全体に知られることで従業員のモチベーション向上につながり、取組への更なる効果が期待できます。</p>
効果	<p>エネルギー使用量の内訳を分析することで、省エネルギー対策効果の評価や、不明なエネルギー消費要因の発見につながります。また、日頃の省エネ対策の効果が視覚化されることで、従業員のモチベーション向上につながり、取組への更なる効果が期待できます。</p>
ポイント	<p>・見える化された情報を有効活用するには、関係者が協力し、改善する職場風土を作ることが重要です。</p>